



1 秋まき小麦の起生期～幼穂形成期追肥について

(1) 秋まき小麦越冬前の生育状況と融雪後の管理について

越冬前の茎数は地域によって差があるものの目標茎数の900本/m²を超えています。今後の生育状況と雪腐病の発生状況を確認し、下表を参考に起生期追肥を行きましょう。

表1 令和6年産秋まき小麦越冬前生育状況(きたほなみ)

	帯広市		芽室町		中札内村		更別村	
	葉数(枚)	茎数(本/m ²)	葉数(枚)	茎数(本/m ²)	葉数(枚)	茎数(本/m ²)	葉数(枚)	茎数(本/m ²)
R6年度産	5.7	1,439	5.8	1,495	5.4	990	5.2	1,056
平年値	5.1	1,019	5.0	1,050	5.2	1,094	5.1	1,037

3月に入り、雪解けが進んでいます。融雪水が停滞する場所では排水対策を行い、ほ場を乾燥させましょう。小麦の根の浮上がりによる生育停滞を防ぐため、融雪後、畑に入れる状況になり次第、鎮圧ローラーを掛けましょう。

(2) 秋まき小麦の起生期～幼穂形成期追肥の目安

「きたほなみ」では起生期茎数1,000本/m²以上の場合、追肥なし(地力が低いほ場の場合は窒素量で2kg/10aを追肥)との指針があります(北海道施肥ガイド2020)。また、「ゆめちから」においても極端な茎数過多では倒伏の発生が懸念されることから、追肥量を抑えましょう。判断が難しい場合には、普及センターまでお問い合わせください。

表2 起生期窒素追肥の目安(起生期平年値：3月30日)

小麦ほ場の状態	窒素施用量	施用の留意事項
①茎数が目標の範囲となっているほ場 (茎数1,000本/m ² 以上)	0～4kg/10a	○融雪後、ほ場に作業機が入れる状態になり次第、実施する。 ○過繁茂となりやすいほ場では施用量を減じる。 ○ゆめちからは8kg/10a施用する。
②茎数が目標に達していないほ場 (茎数1,000本/m ² 未満)	4～6kg/10a	

表3 幼穂形成期窒素追肥の目安(幼穂形成期平年値：5月3日)

小麦ほ場の状態	窒素施用量	施用の留意事項
①茎数が目標の範囲となっているほ場 (茎数2,000本/m ² 以上)	追肥を控える 2～4kg/10a	○5月上旬頃が目安。 ○起生期～幼穂形成期の追肥窒素量の合計は8kg/10a以内とする。 ○ゆめちからは施用を控える。
②茎数が目標に達していないほ場 (茎数2,000本/m ² 未満)		

2 馬鈴しょの浴光催芽について

馬鈴しょ栽培は「種いも半作」と言われるように、種いもの管理が非常に重要となります。適切な浴光催芽は、萌芽の斉一化、適切な茎数確保により収量・品質の向上に繋がります。今一度、自分の催芽管理を見直しましょう。

(1) 浴光催芽前の準備

出庫前(10~15日前)に10℃程度に昇温させ、浴光催芽前に種いもの芽を1~2mm程度にすることで、①浴光した際に光を受け止めやすくなる、②頂芽優勢が崩れ茎数を揃えやすいといった効果があります。

昇温せずに浴光催芽をした種いものは、昇温した種いものに比べて、催芽期間を10日程度確保する必要があり、催芽期間中に低温に遭う確率が高くなり管理が難しくなります。出庫前の昇温を適切に実施し、催芽作業を行いましょ。

(2) 浴光催芽の方法

- ①催芽目標 頂芽の大きさは5~10mm、太さは5~7mm程度を目指しましょう。
- ②催芽日数 催芽に必要な日数は品種によって変わります。下の表を参考にし、浴光催芽を行ってください。

表4 品種毎の催芽に要する日数

品種名	催芽日数
メークイン	15~20日
男爵いも、スノーデン、トヨシロ、とうや、きたひめ	25日程度

- ③催芽適温 芽が動くまで：15℃程度
芽が動いたら：5~15℃程度

④芽が動いた後の管理

- ・種いものは明所に置き、昼間の温度は15℃を越えないように気をつけましょう。

→温度が高すぎる(20℃以上)と、芽の軟弱徒長、黒色心腐を招きます!

- ・催芽期間中は、1週間に1回以上種いもの上下積み替えが必要です。

→下段の芽が軟弱に徒長するのを防ぎましょう!

⑤注意事項

- ・高温、日照不足、多湿条件では芽が徒長するので注意が必要です。
- ・芽が伸びすぎて脱落すると、減収の要因になります。

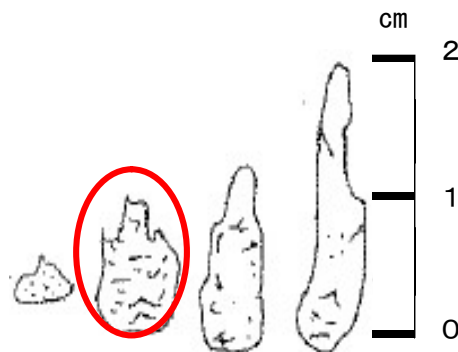


図 浴光催芽時の芽の模式図
※丸がついているような太く短い芽を作らましょ。

体調管理に気をつけ、春の農作業事故を防ぎましょ!